

2015 年 10 月 28 日

報道機関各位

調査レポート

グラフで見る関西経済(2015 年 10 月)

【今月の景気判断】

関西経済は横ばい圏で推移している。生産は、2015 年 1 月をピークに減少しており、均してみると 14 年初め以降、横ばい圏で推移している。実質輸出は、今年初めに大きく振幅した後、横ばい圏で推移している。雇用環境をみると、有効求人倍率が上昇する一方で、就業者数が減少傾向にあるなど全体として横ばい圏で推移している。賃金も現金給与総額が足下で減少して横ばい圏で推移しており、個人消費も横ばい圏で推移している。住宅着工は、消費税率引き上げ前の駆け込みの反動で減少した後、振幅しながらも総じて横ばい圏で推移してきたが、足下で持ち直しの動きがみられる。設備投資は、14 年度は前年比で増加となったが、足下で持ち直しが一服している。公共投資は、横ばい圏で推移している。先行きは、海外経済の回復が緩やかにとどまる中で、輸出、生産など企業部門の動きが当面横ばいとなるだろう。関西経済は、横ばい圏での推移が続くと見込まれる。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	→		→	輸出	→		→
個人消費	→		→	輸入	→		→
住宅投資	↗		→	生産	→		→
設備投資	→		→	雇用	→		→
公共投資	→		→	賃金	→		→

(注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
2. シェード部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～減速する中国経済の行方。米国の金融政策と新興国通貨の下落。
- ・企業活動～生産、輸出、設備投資の動向。原油安と為替変動の影響。
- ・政策～安倍政権の経済政策・財政再建の行方、追加金融緩和の可能性。
- ・家計～実質賃金の動向と家計の消費行動への影響。マンション傾斜問題の住宅販売への影響。

～本レポートについては最終ページ【「グラフで見る関西経済」の見方】参照

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 主任研究員 塚田裕昭

〒105-8501 東京都港区虎ノ門 5-11-2

TEL: 03-6733-1070

同時配布先：大阪経済記者クラブ、関西金融記者クラブ

【各項目のヘッドライン】

項目	9月のコメント	10月のコメント	ページ
1．景気全般	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	3～4
2．生産	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	5～7
3．雇用	持ち直しの動きがみられる	横ばい圏で推移している	8～9
4．賃金	持ち直しが一服している	横ばい圏で推移している	9～10
5．個人消費	持ち直しの動きが一服している	横ばい圏で推移している	10～12
6．住宅投資	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	12
7．設備投資	持ち直しが一服	持ち直しが一服	13～14
8．公共投資	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	14
9．輸出入	輸出は弱含み、輸入は横ばい圏で推移	輸出入ともに横ばい	15～16
10．物価	緩やかに上昇	緩やかに上昇	16
11．金融	預金は増加、貸出は横ばい	預金は増加、貸出は横ばい	17
12．倒産	倒産件数は増加、負債総額は減少	倒産件数、負債総額ともに減少	17

（注）シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目（11.金融、12.倒産を除く）

（＊）参考資料：「グラフでみる景気予報」 → <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

【前月からの変更点】
3．雇用

求人倍率が緩やかに上昇する一方、就業者数は減少傾向にあり、雇用情勢全体としては横ばい圏で推移している。

4．賃金

6月の近畿圏の現金給与総額は、前年比 - 2.1%と5ヶ月連続で減少した。14年にみられた持ち直しが一服し、このところ横ばい圏での推移となっている。

5．個人消費

大型小売店販売が前年比でプラスとなる一方、乗用車販売はマイナスが続いている。個人消費に含まれないインバウンドによる販売統計の押し上げを除くと、個人消費は横ばい圏で推移している。

9．輸出入

弱含みで推移していた近畿地区の実質輸出は、9月に前月比 + 1.3%と2ヶ月連続で増加した。

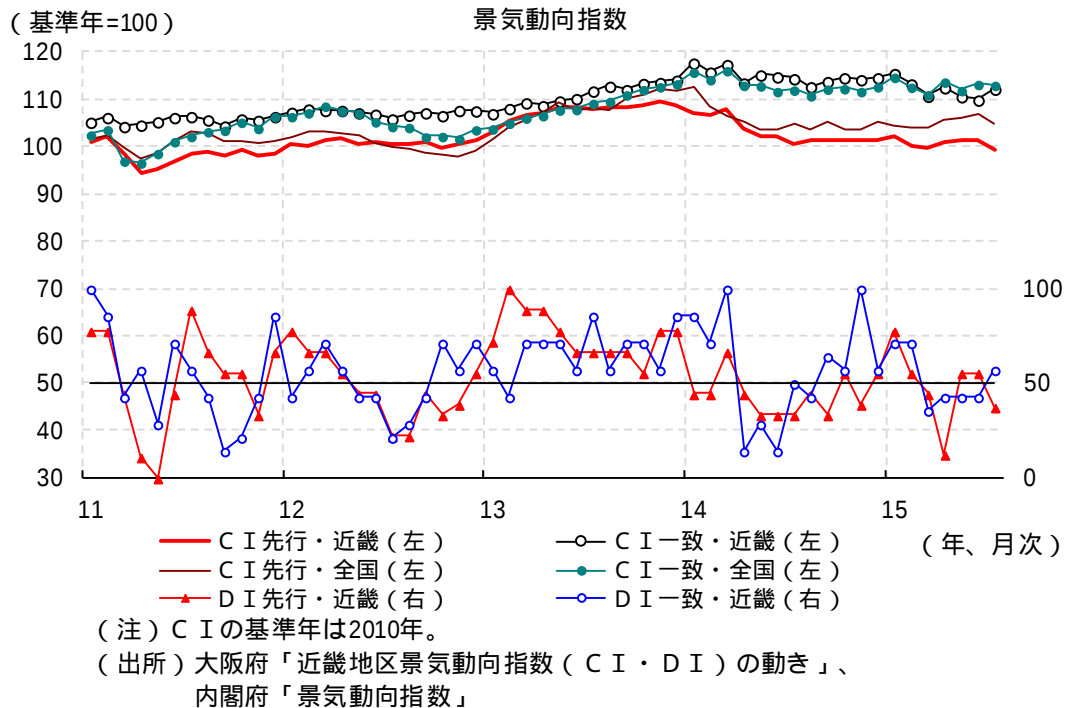
【主要経済指標の推移】

経済指標		14 7-9	14 10-12	15 1-3	15 4-6	15 7-9	15 4	15 5	15 6	15 7	15 8	15 9
景気全般	景気動向指数（近畿）C I 先行指数（05年=100）	101.1	101.4	100.6	101.3		100.9	101.5	101.5	99.4		
	C I 一致指数（ " ）	113.7	114.6	113.3	111.1		112.6	110.7	110.0	112.3		
	D I 先行指数（%ポイント）	37.0	50.0	59.3	41.2		12.5	55.6	55.6	37.5		
	D I 一致指数（ " ）	52.4	71.4	59.5	42.9		42.9	42.9	42.9	57.1		
	景気ウォッチャー調査（近畿）現状判断D I（ " ）	50.0	46.7	51.9	53.8	51.4	54.9	53.1	53.3	52.4	51.4	50.5
	先行判断D I（ " ）	51.8	48.9	54.2	54.7	49.9	56.1	53.7	54.2	52.6	47.3	49.9
	日銀短観（近畿）業況判断D I 製造業（%ポイント）	2	7	7	4	2	4	<12月予想>				
	非製造業（ " ）	0	2	6	7	11	11	<12月予想>				
生産	法人企業統計（近畿）経常利益 製造業（兆円）	0.8	1.0	0.5	1.0							
	非製造業（兆円）	0.4	0.3	0.4	0.8							
	鉱工業生産（近畿）（季節調整済、前期比・前月比）	-1.3	1.0	4.4	-2.6		-4.1	-1.2	1.7	0.2	-2.3	
	鉱工業出荷（近畿）（ " ）	-0.3	1.2	2.7	-2.7		-2.1	-1.9	1.2	0.5	-1.8	
	鉱工業在庫（近畿）（ " ）	2.2	-1.4	-0.1	0.2		0.2	0.2	0.6	1.2	-0.8	
	鉱工業生産（近畿）鉄鋼（ " ）	-0.6	-1.9	1.3	-2.5		-5.2	3.2	-2.1	-3.2	0.7	
	金属製品（ " ）	-2.3	-4.9	3.1	2.5		11.0	-14.8	-11.2	26.6	-14.3	
	一般機械（ " ）	0.5	-1.4	16.0	-4.5		-22.6	-4.2	10.9	-4.4	-6.7	
雇用	輸送機械（ " ）	-4.4	0.3	2.4	-0.3		4.4	-7.5	0.1	-0.9	4.6	
	電気機械（ " ）	-7.4	1.4	7.6	-7.9		-15.3	10.4	-0.4	-2.4	2.8	
	化学（ " ）	1.2	-1.5	5.6	-4.1		0.8	1.3	4.4	3.0	-5.5	
	大口販売電力量（関西）	-3.7	-3.4	-3.9	-5.1		-3.8	-6.9	-4.7	-3.6		
	完全失業率（近畿）（%）	0.2	-0.3	-0.4	-0.5		-0.8	-0.3	-0.3	-0.4	0.4	
	就業者数（近畿）（万人）	871	875	880	867		874	864	864	849	861	
	雇用者数（近畿）建設業（前年差、万人）	-3	-4	-5	-2							
	製造業（ " ）	-4	-5	-6	-6							
賃金	運輸業、郵便業（ " ）	-1	-2	4	-4							
	卸売業、小売業（ " ）	-5	0	6	1							
	医療、福祉（ " ）	-1	-5	-1	1							
	サービス業（医療、福祉以外）（ " ）	-2	3	1	-6							
	有効求人倍率（近畿）（季節調整値、倍）	1.03	1.04	1.06	1.09		1.08	1.10	1.10	1.11		
	新規求人倍率（近畿）（ " ）	1.57	1.63	1.66	1.70		1.71	1.69	1.70	1.72		
	現金給与総額（近畿）	1.3	2.1	0.1	-1.3		-1.0	-0.3	-2.1			
	所定内給与（近畿）	0.5	1.0	0.9	0.5		0.2	-0.4	-0.5			
個人消費	所定外給与（近畿）	1.3	0.2	0.9	0.5		-0.3	2.2	1.0			
	勤労者世帯（含む農家）の名目収入（近畿）勤め先収入	-9.4	3.5	3.5	5.8	6.9	4.1	5.5	9.6	11.4		
	定期収入	-4.8	0.6	0.6	6.6	2.2	0.7	3.2	2.6	0.3		
	勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出（近畿）	-1.5	-2.3	0.7	1.5		-1.7	13.3	-6.4	-2.0	1.6	
	大型小売店販売状況（近畿）百貨店＋スーパー	0.6	0.5	-5.1	4.9		0.1	1.1	0.3	0.2	0.5	-13.9
	コンビニエンス・ストア販売状況（近畿）	5.8	6.6	6.9	5.7	7.5	9.3	7.3	6.0	6.0	6.9	5.2
	家電販売額（近畿）	-8.3	-9.5	-32.8	5.5		15.4	17.2	-10.4	0.8		
	新車登録台数（近畿）	-3.0	-5.3	-16.2	-5.0		-8.1	-5.3	-2.4	-7.1		
住宅投資	消費者態度指数（近畿、一般世帯）（原数値）（ ）	40.9	38.0	39.6	40.9		40.8	40.7	41.2	40.8	41.7	40.2
	新設住宅着工戸数（近畿）（季節調整済年率換算、千戸）	132.9	128.1	127.9	143.2		123.9	139.4	166.4	128.3		
	（前年比、%）	-8.6	-20.5	-8.2	0.1		-20.9	3.2	19.2	1.7		
	設備投資 法人企業統計季報（近畿）設備投資 製造業	10.4	14.0	-8.8	-12.4							
	非製造業	-22.8	0.5	-1.4	-4.6							
	企業立地件数（近畿）（件）	—	—	—	—	—	14					
	公共投資 公共工事請負額（近畿）	-0.8	-6.4	-19.0	7.7	-14.7	40.9	-26.5	6.4	-18.2	-11.6	-13.4
	輸出入 実質輸出（近畿）（季節調整済、10年=100）	99.7	103.6	106.9	101.4		102.7	101.0	100.3	99.4	101.9	
物価	通関輸出（大阪税関）輸出総額	4.8	10.8	9.7	5.2		5.4	2.7	7.3	4.9	2.0	
	実質輸入（近畿）（季節調整済、10年=100）	114.2	115.2	119.4	111.9		112.6	113.6	109.4	116.1	117.2	
	通関輸入（大阪税関）輸入総額	3.0	2.1	-6.1	-5.7		-4.3	-8.2	-4.7	-0.6	0.3	
	消費者物価指数（近畿）生鮮食品を除く総合	2.9	2.5	2.0	0.3		0.3	0.2	0.3	0.1	0.2	
	食料及びエネルギーを除く総合	2.2	2.0	1.9	0.5		0.3	0.5	0.6	0.6	0.8	
	金融 国内銀行預金残高（近畿）	1.0	1.4	1.8	1.5		1.8	2.7	2.5	3.2		
	国内銀行貸出金残高（近畿）	2.0	0.8	2.3	1.1		0.6	0.2	0.1	0.1		
	倒産 倒産件数（近畿）	-3.9	-10.3	-8.8	-12.2		-19.6	-8.0	-7.3	-6.9	3.0	-30.5

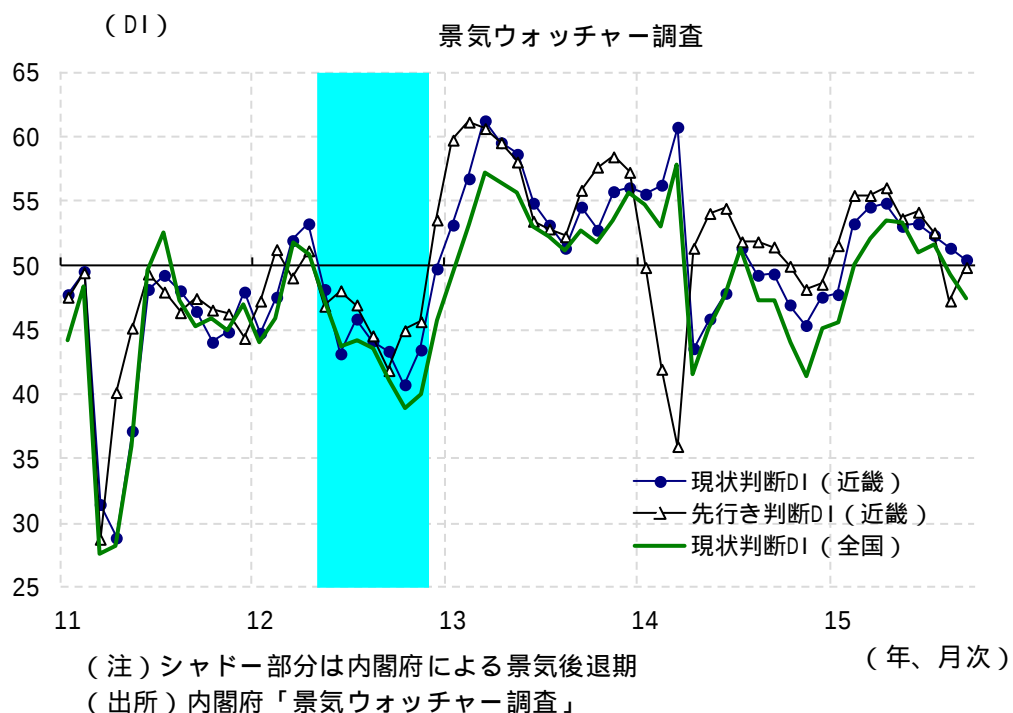
（注）括弧書きのない場合は、単位は前年比、%
消費者態度指数は、13年3月までは訪問調査、4月以降は郵送調査の値。

1. 景気全般 ～横ばい圏で推移している

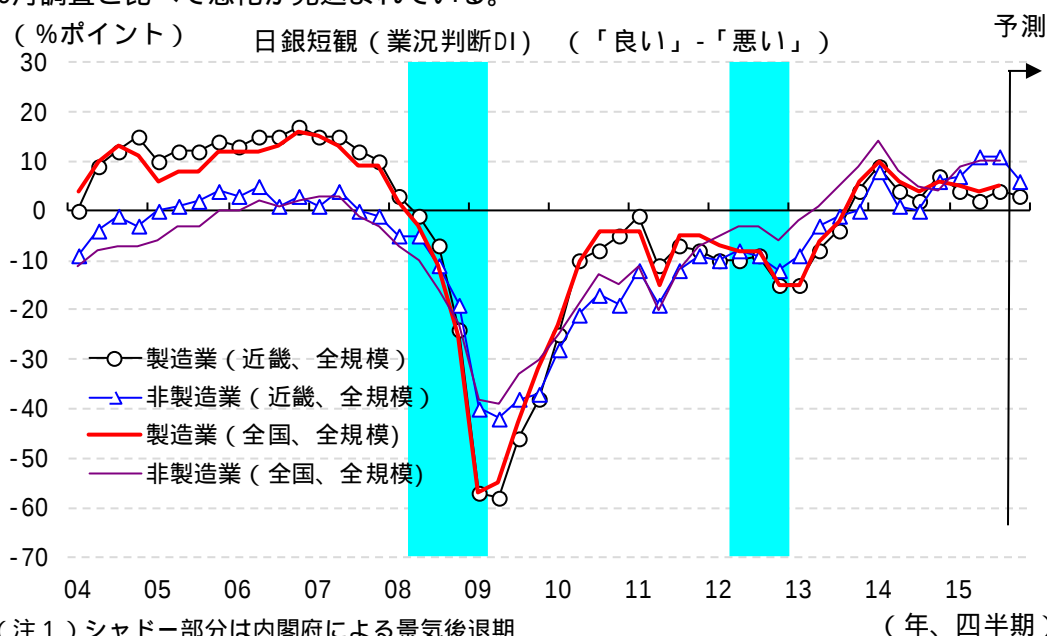
- 7月の近畿地区の景気動向指数・C I一致指数は前月差+2.3ポイントの112.3と3ヶ月ぶりに上昇した。鉱工業生産指数、百貨店売場面積当たり販売額など採用7系列全てがプラスに寄与した。一方、C I先行指数は同-2.1ポイントの99.4と4ヶ月ぶりに低下した。採用9系列のうち、新設住宅着工戸数、鉱工業在庫指数、など6系列がマイナスに寄与した。



- 景気ウォッチャー調査によると、9月の近畿地区の現状判断D Iは前月差-0.9ポイントの50.5と3ヶ月連続で低下した。景気の横ばいを示す50を8ヶ月連続で上回ったが、このところ水準の低下が続いている。家計動向関連の現状判断D Iは同+0.4ポイントの50.8と3ヶ月ぶりに上昇した。先行き判断D Iは同+2.4ポイントの49.9と3ヶ月ぶりに上昇したが、2ヶ月連続で横ばいを示す50を下回った。



- 日銀短観9月調査によると、近畿地区の業況判断DI（「良い」 - 「悪い」）は全産業（全規模）で+7と6月調査と同水準となり、8四半期連続で「良い」超となった。製造業（全規模）は+4と2ポイント上昇、非製造業（全規模）は+11と6月調査と同水準となった。先行きについては、製造業、非製造業とも9月調査と比べて悪化が見込まれている。

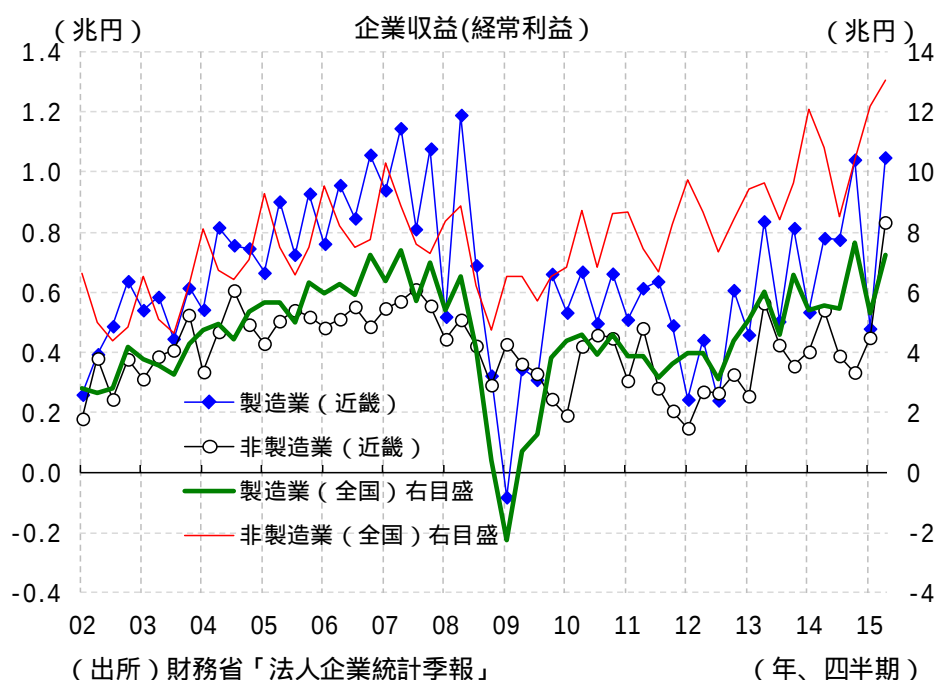


(注1) シャドー部分は内閣府による景気後退期

(注2) 2004年3月調査、2007年3月調査、2010年3月調査、2015年3月調査時点で、調査対象企業の見直しが行われたため、前後の系列にギャップがある

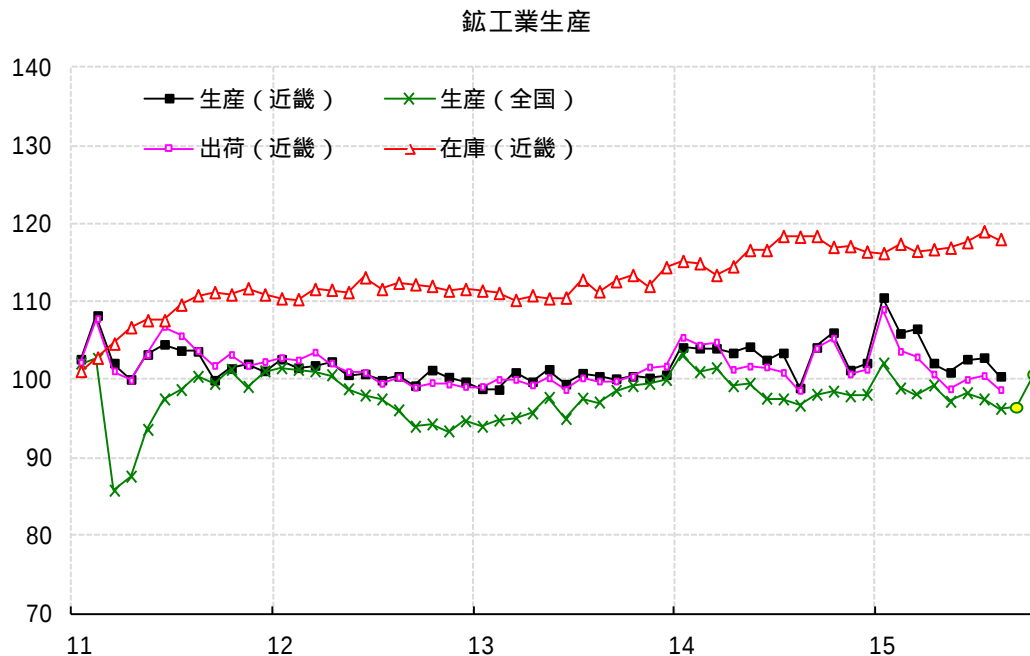
(出所) 日本銀行大阪支店「企業短期経済観測調査（近畿地区）」

- 2015年4～6月期の近畿地区の大企業の経常利益（全産業）は、前年比+42.4%と2四半期ぶりに増加した。製造業は同+34.4%と2四半期ぶりに増加し、非製造業は同+54.0%と2四半期連続で増加した。日銀短観9月調査では、14年度の経常利益は全産業・全規模で同+17.2%と大幅増となった。15年度も同+6.2%と増益見込みとなっている。

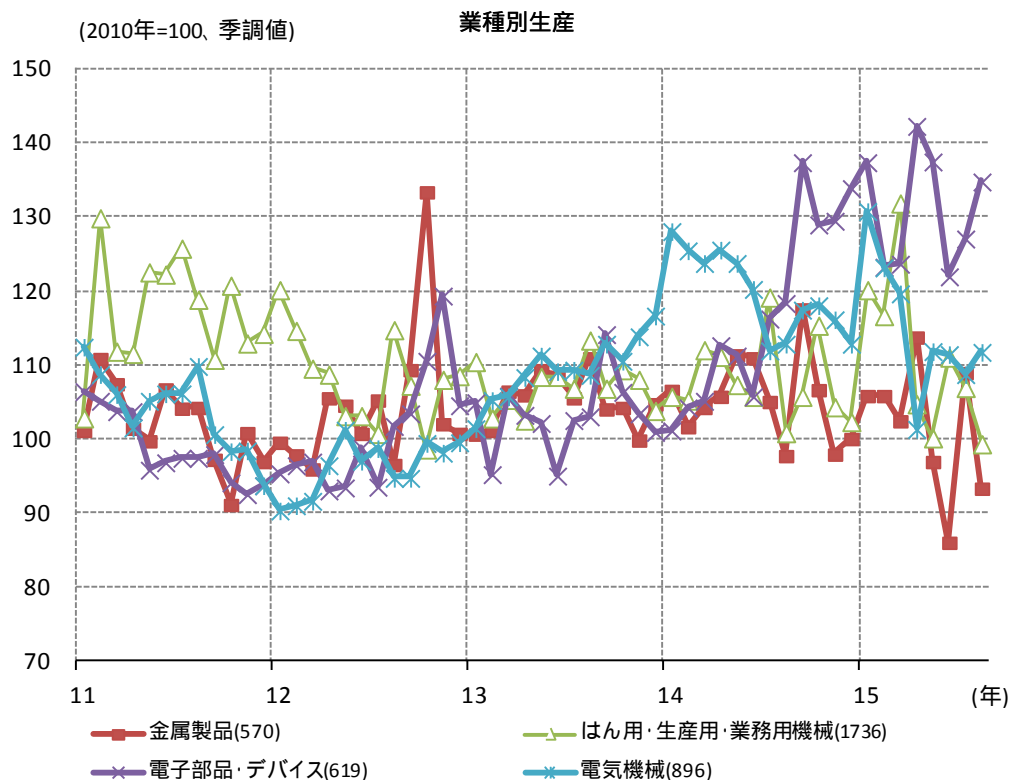


2. 生産 ～横ばい圏で推移している

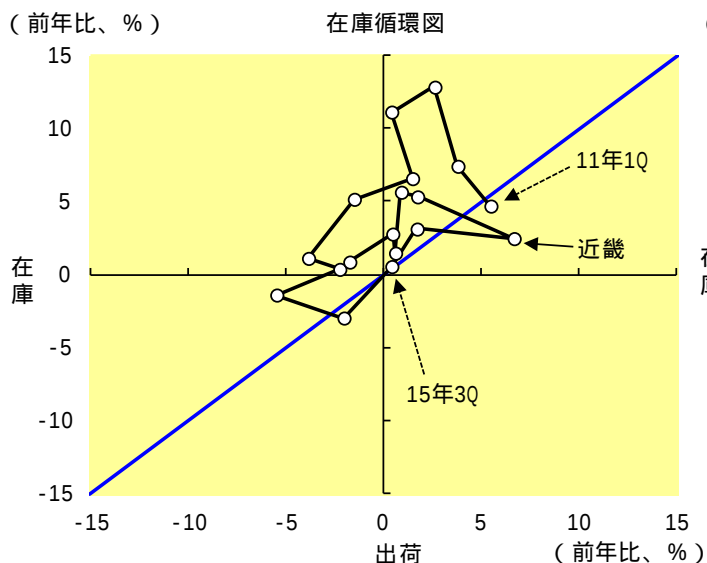
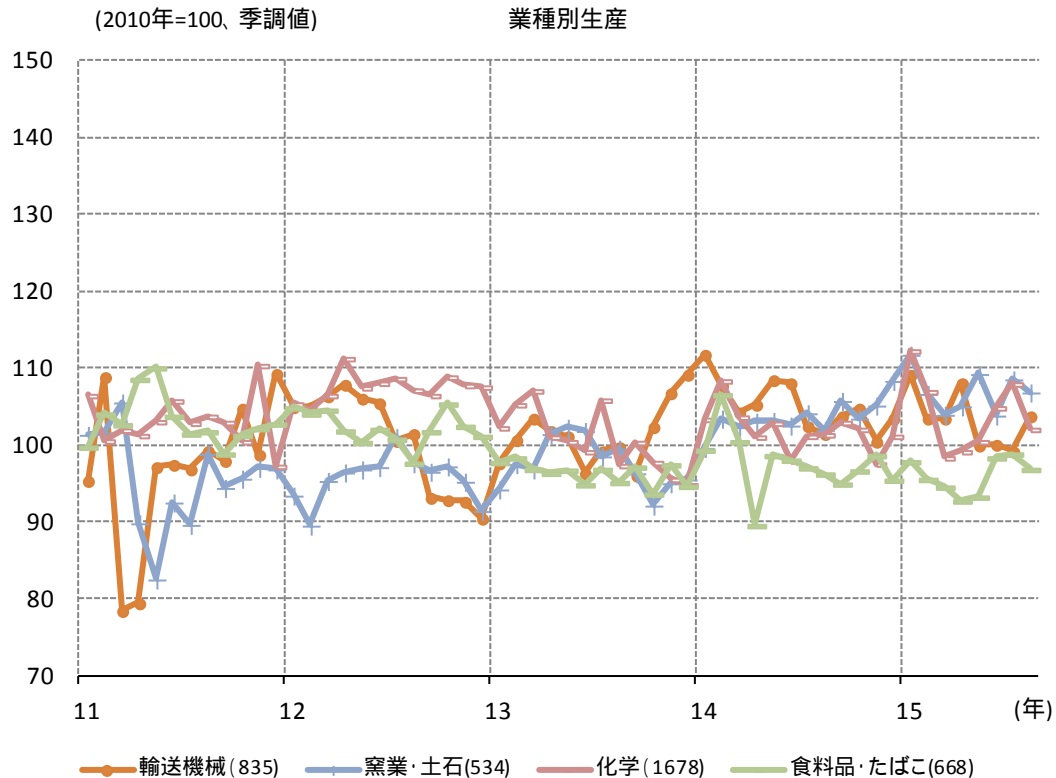
○8月の近畿地区の鉱工業生産は前月比 - 2.3%と3ヶ月ぶりに減少した。電子部品・デバイス、電気機械などが増加したが、はん用・生産用・業務用機械、金属製品、化学（除・医薬品）などが減少した。近畿の生産は、上下に振れながらも均して見ると横ばい圏の推移が続いている。今後も世界経済の回復は緩やかであり、生産は横ばい圏での推移が見込まれる。



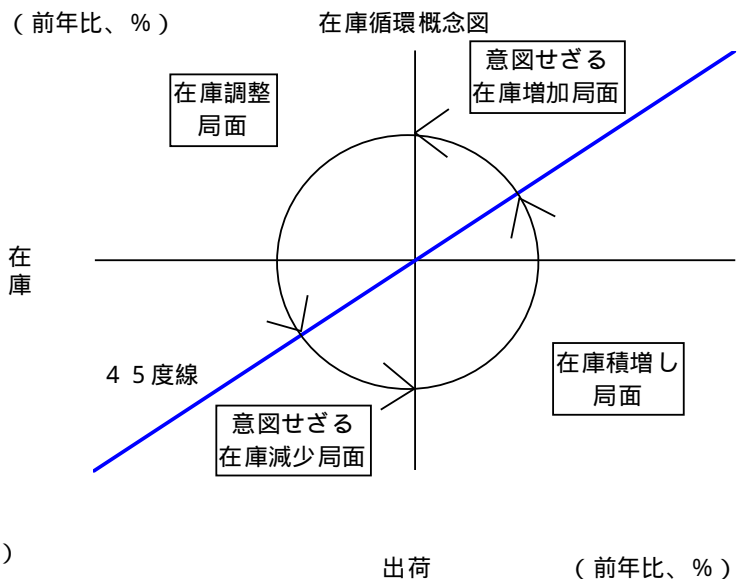
（注）生産（全国）の「○」は製造工業生産予測調査結果から試算した（年、月次）
 予測基準年は2010年
 （出所）近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」



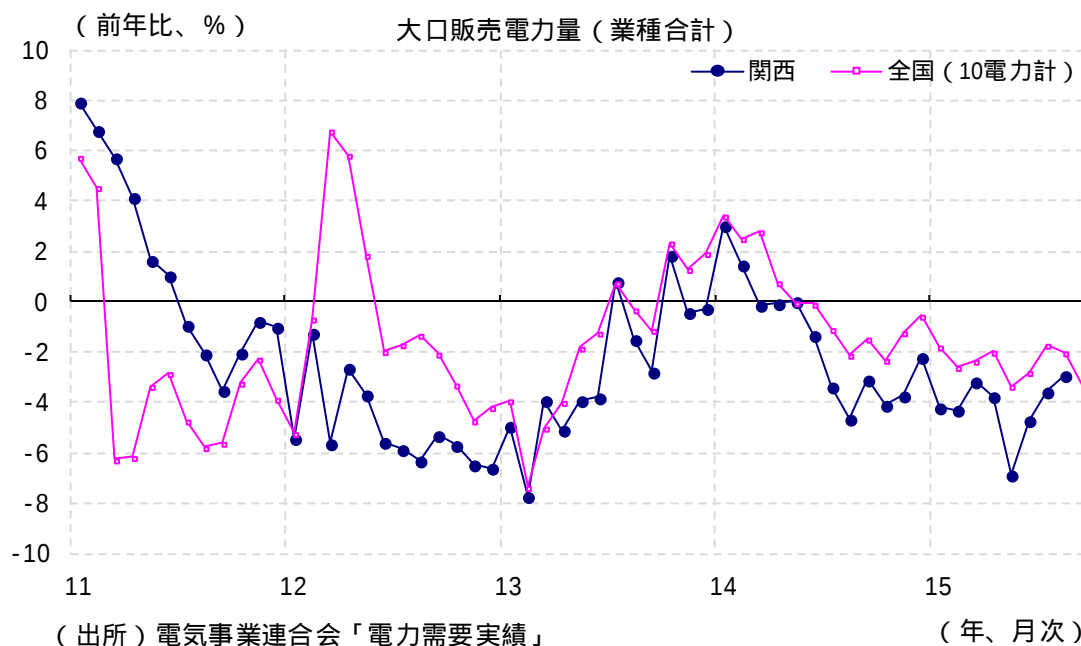
（注）凡例の括弧内の数字は付加価値ウエイト(鉱工業 = 10,000)
 （出所）近畿経済産業局「鉱工業生産動向」



(注) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
直近15年3Qの出荷は7、8月平均、在庫は8月の前年比
(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

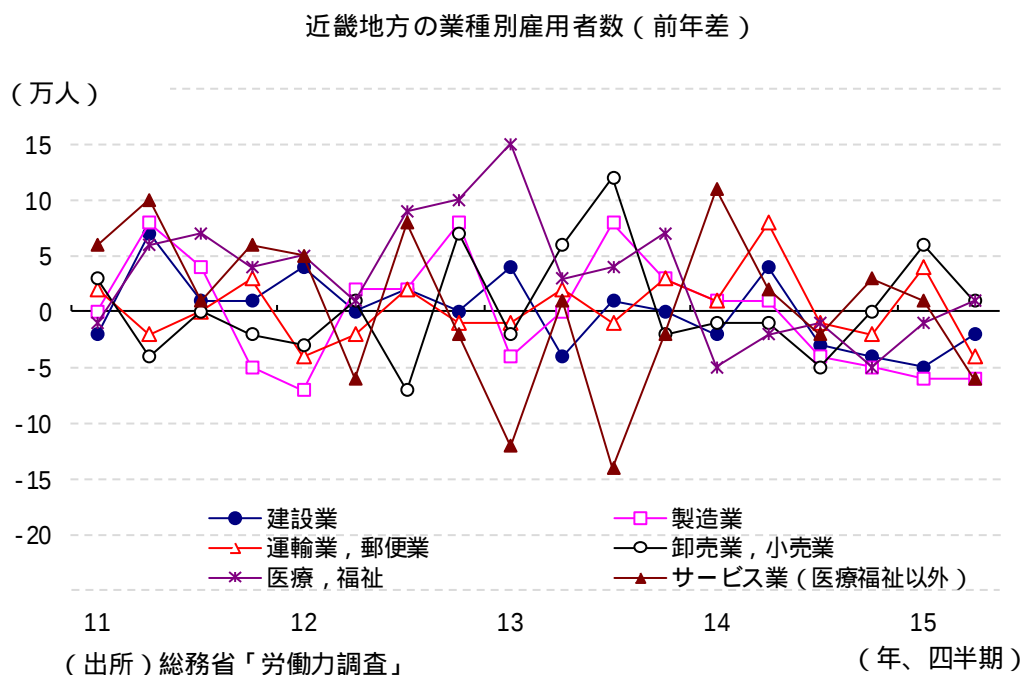
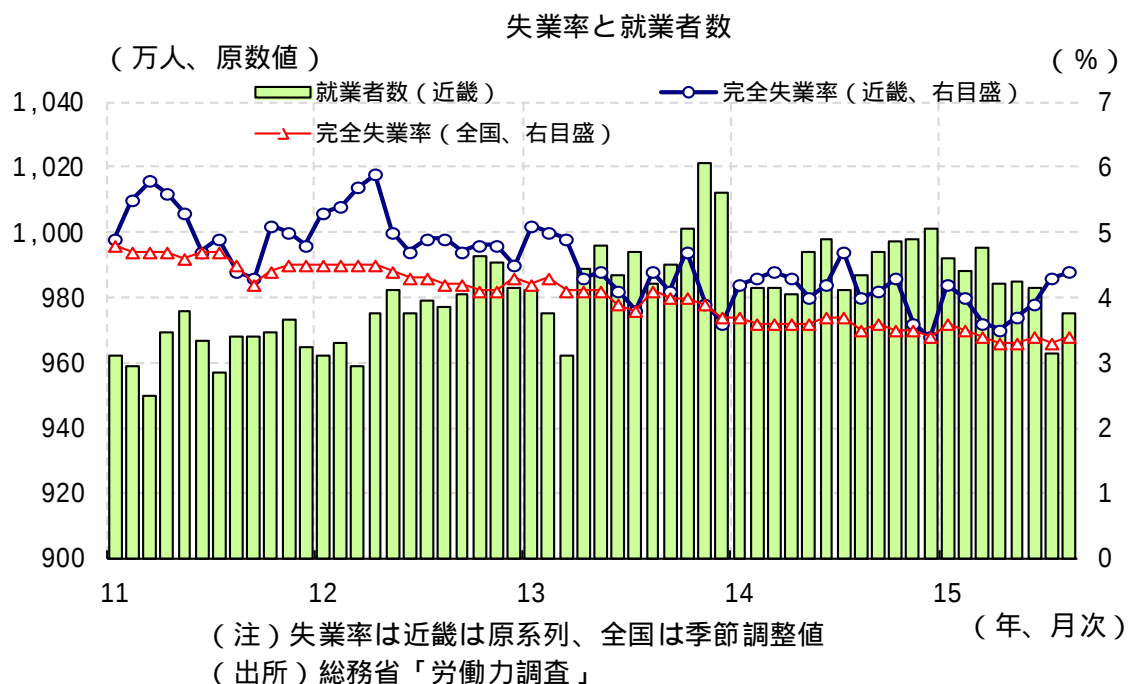


- 8月の関西電力の大口販売電力量（契約電力500kw以上の産業用需要）は、前年比 - 2.9%と15ヶ月連続で減少した。業種別にみると、製造業では主要11業種のうち、化学、非鉄金属の2業種が前年実績を上回ったが、他の9業種は前年実績を下回った。特に鉄鋼、繊維などで減少幅が大きい。非製造業では、鉄道業、その他は前年実績を上回ったが、水道業は下回った。

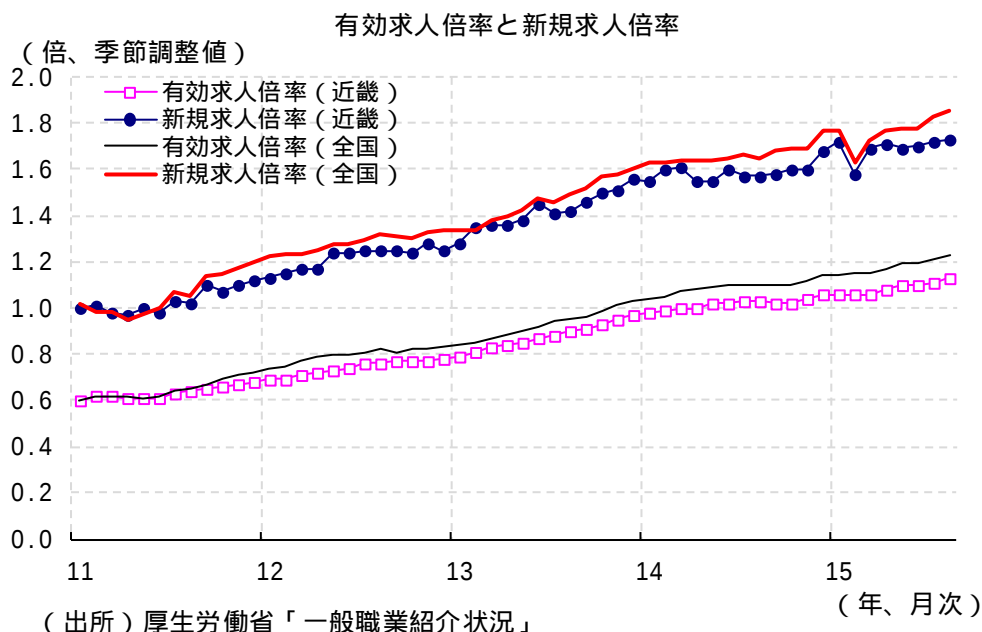


3. 雇用 ～横ばい圏で推移している

○8月の近畿の完全失業率は前年差+0.4%ポイントの4.4%と13ヶ月ぶりに上昇した。雇用者数は前年差6万人の減少、就業者数は同12万人の減少となり、完全失業者数は同4万人増加した。業種別(4～6月期)に雇用者数をみると、卸・小売業などが増加する一方、建設業、製造業、運輸業・郵便業などが減少した。今後の雇用情勢は、景気に足踏み感が出ており、横ばい圏での推移が見込まれる。

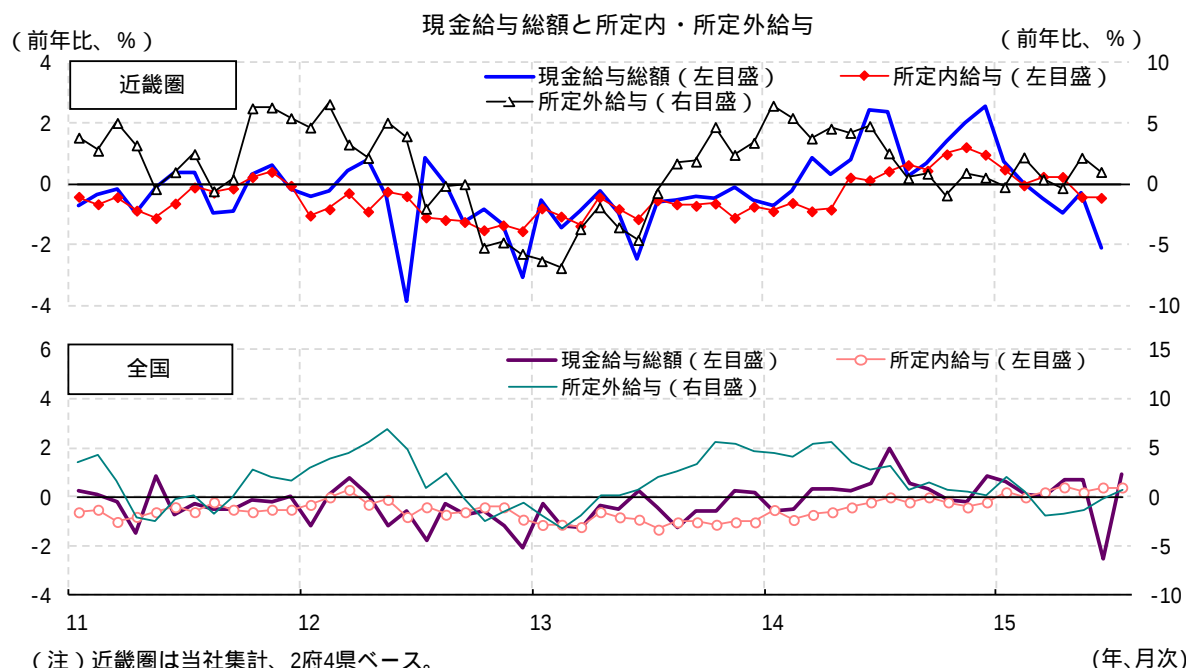


- 8月の近畿圏の求人動向は、有効求人数が前月比+2.6%と2ヶ月連続で増加、有効求職者数は同+0.7%と6ヶ月ぶりに増加し、有効求人倍率は1.13倍と前月より上昇した。一方、有効求人倍率に先行する新規求人倍率は1.73倍と3ヶ月連続で上昇した。新規求職申込件数が同+2.0%と3ヶ月ぶりに増加したが、新規求人数が前月比+2.7%と3ヶ月ぶりに上昇した。

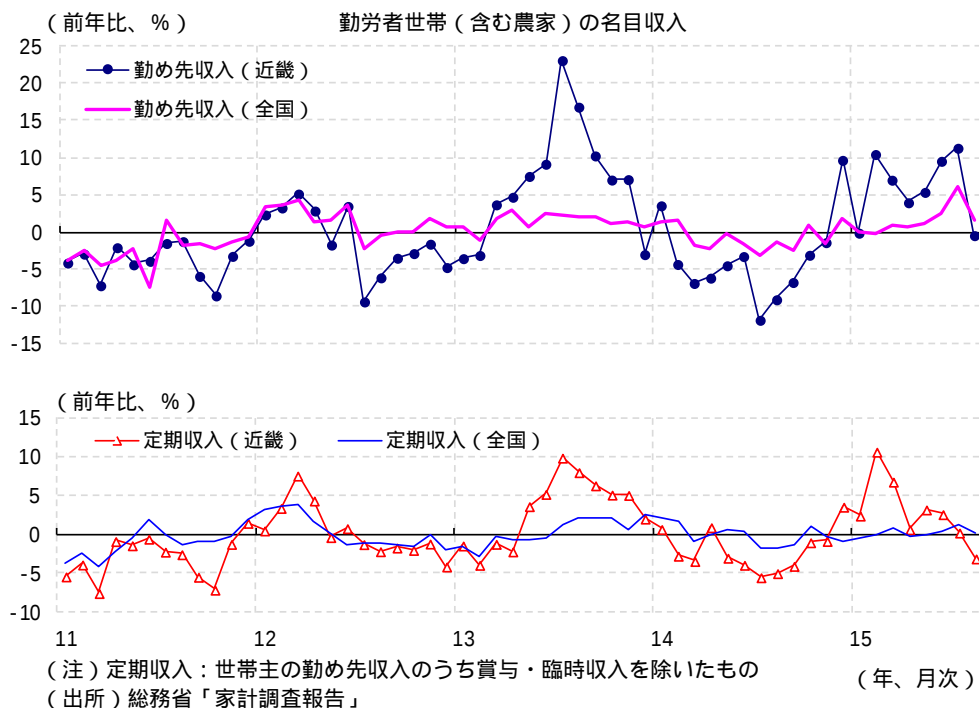


4. 賃金 ～横ばい圏で推移している

- 6月の近畿圏の現金給与総額は、前年比-2.1%の43万円と5ヶ月連続で減少した。所定外給与は同+1.0%と2ヶ月連続で増加したが、所定内給与は同-0.5%と2ヶ月連続で減少した。7月の現金給与総額は、和歌山県を除く2府3県でみると前年比-0.3%の37万円となった。今後も景気に足踏み感がある中、賃金は横ばい圏での推移が見込まれる。

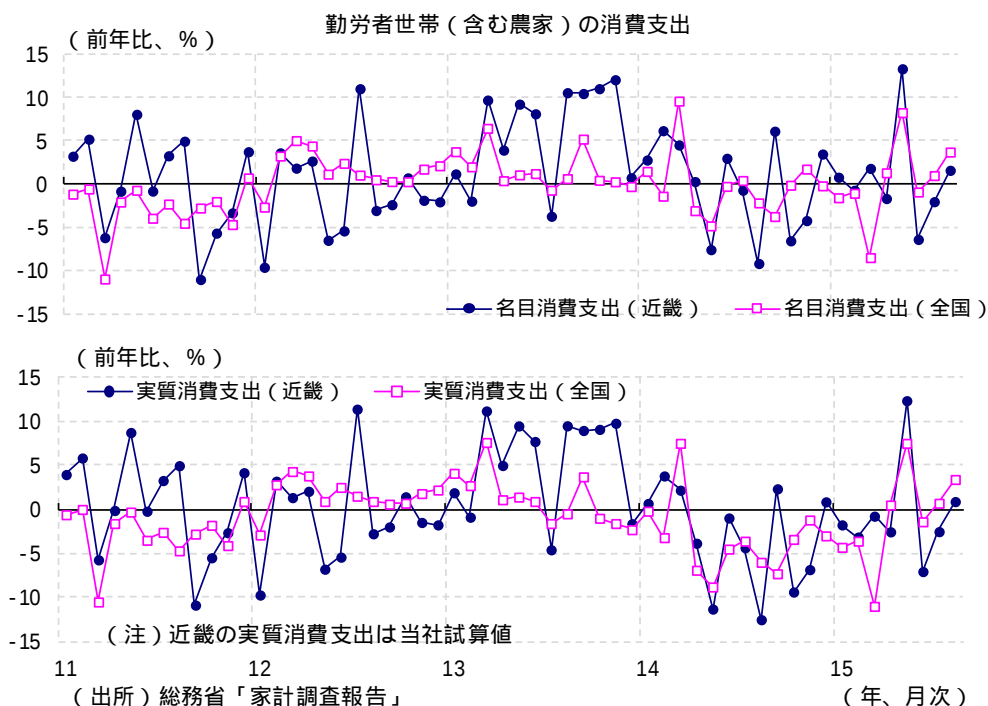


- 家計調査によると、8月の近畿圏の勤労者世帯（含む農家）の勤め先収入は前年比 - 0.4%の39.7万円となった。また、世帯主の勤め先収入は前年比 - 4.6%の34.1万円と7ヶ月ぶりに減少した。世帯主の勤め先収入の内訳をみると、賞与・臨時収入を除いた定期収入が同 - 3.1%の33.2万円と9ヶ月ぶりに減少した。

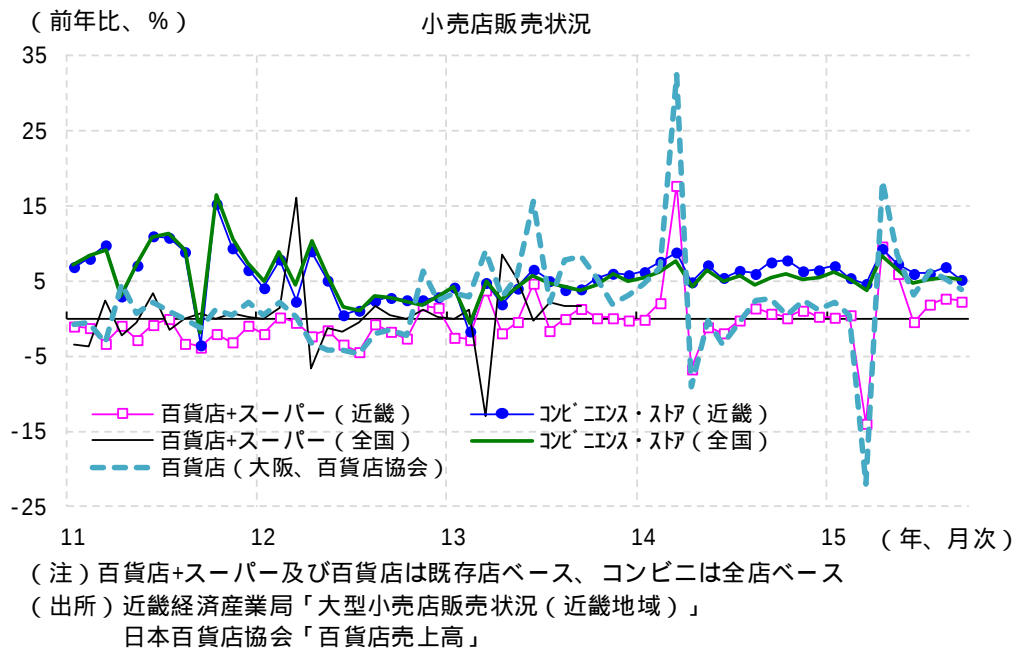


5. 個人消費 ～横ばい圏で推移している

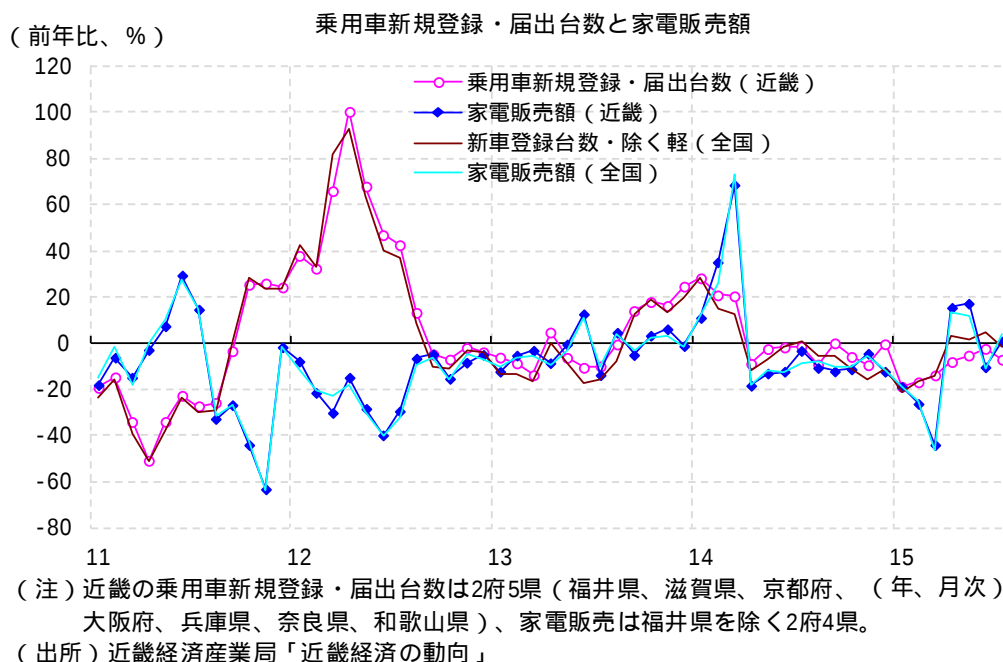
- 家計調査によると、8月の近畿圏の勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出は前年比 + 1.6%と3ヶ月ぶりに増加し、物価の上昇分を除いた実質でも同 + 0.9%と3ヶ月ぶりに増加した。関西の個人消費は、持ち直しの動きが一服し、横ばい圏で推移している。今後も、実質所得の持ち直しが限定的となる中、横ばい圏での推移が続くと見込まれる。



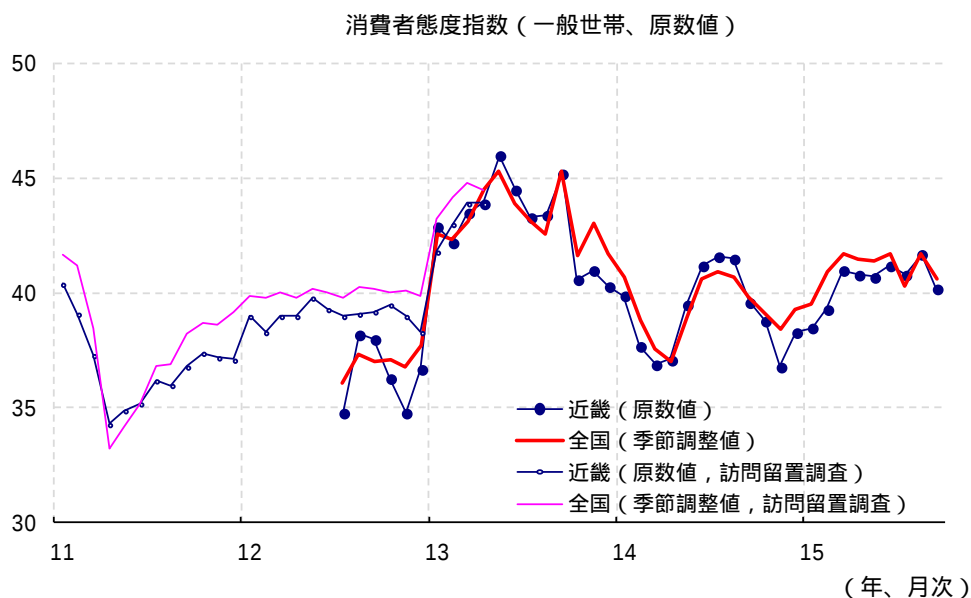
- 9月の近畿地区の大型小売店（百貨店＋スーパー）の販売額は、既存店で前年比＋2.3％と3ヶ月連続で増加、全店では同＋3.5％と6ヶ月連続で増加した。コンビニエンス・ストアの販売額（全店）は同＋5.2％と31ヶ月連続の増加となった。9月の大阪の百貨店売上高（百貨店協会）は、店舗調整後で同＋3.8％と6ヶ月連続で増加となった。



- 8月の近畿地区の乗用車新規登録・届出台数は前年比－1.0％と17ヶ月連続で減少、小型車は2ヶ月ぶりに前年を上回ったが、軽自動車の大幅な落ち込みが全体を引き下げた。府県別では、京都、和歌山を除く1府4県で減少した。また、8月の近畿地区の家電販売は、前年比＋6.7％と2ヶ月連続で増加した。パソコン（本体）などが前年を下回ったものの、エアコン、冷蔵庫などが前年を上回った。



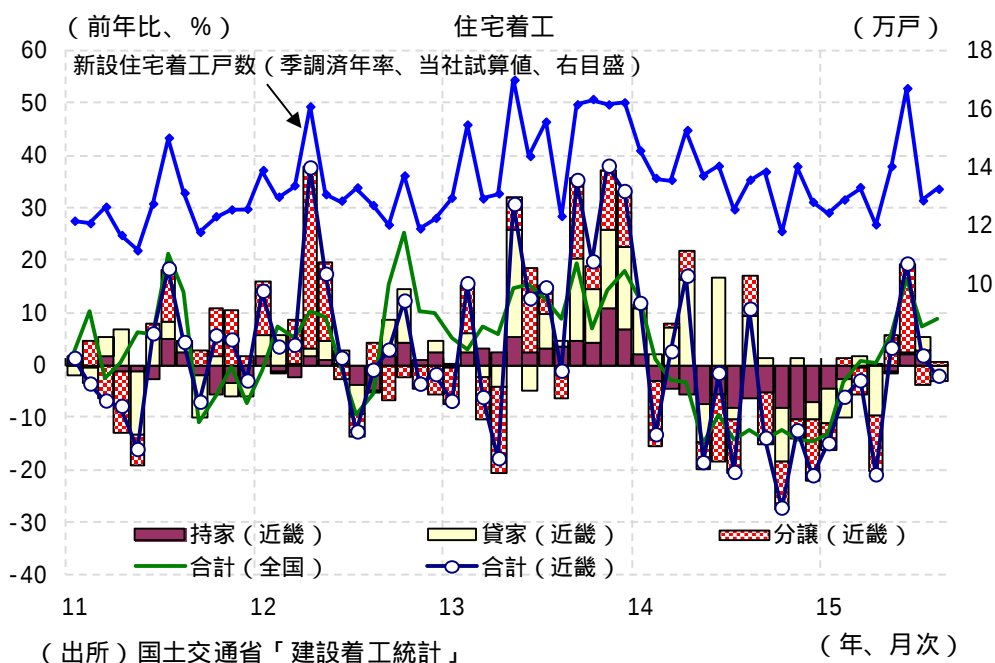
- 消費者マインドを表す消費者態度指数（近畿、一般世帯、原数値）は、9月は前月差 - 1.5ポイントの40.2と2ヶ月ぶりに低下したが、均してみると横ばいで推移している。物価上昇が緩やかになってきているものの、名目賃金は上昇していない。今後も、日用品を中心に物価が再び上昇し実質購買力が伸び悩むことへの懸念等から、消費者マインドは横ばい圏で推移しよう。



(注) 2013年4月調査より調査方法等を変更したため、それ以前の訪問留置調査の数値と不連続が生じている。
郵送調査の2012年7月～2013年3月は試験調査による参考値。
(出所) 内閣府「消費動向調査」

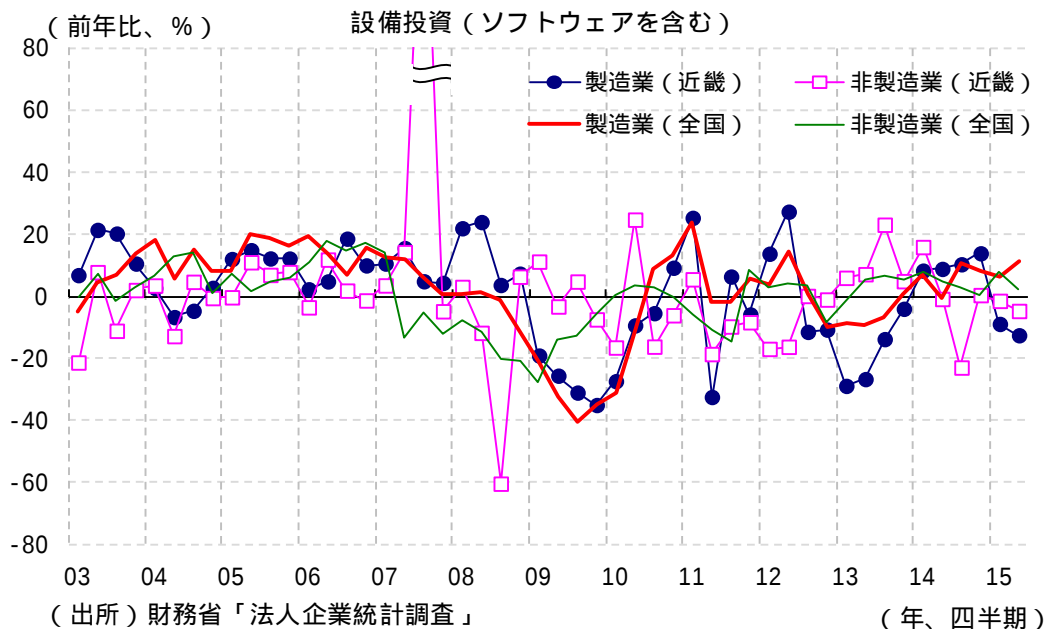
6. 住宅投資 ～持ち直しの動きがみられる

- 8月の近畿圏の住宅着工戸数は、前年比 - 2.1%の12,490戸と4ヶ月ぶりに減少した。分譲は2ヶ月ぶりに増加したが、貸家は3ヶ月ぶりに減少した。一方、季調済戸数は年率13.2万戸と2ヶ月ぶりに増加した。近畿の住宅着工は、消費税率引き上げ前の駆け込みの反動で減少した後、総じて横ばい圏で推移してきたが、足下で大きく振幅しながらも持ち直しの動きがみられる。

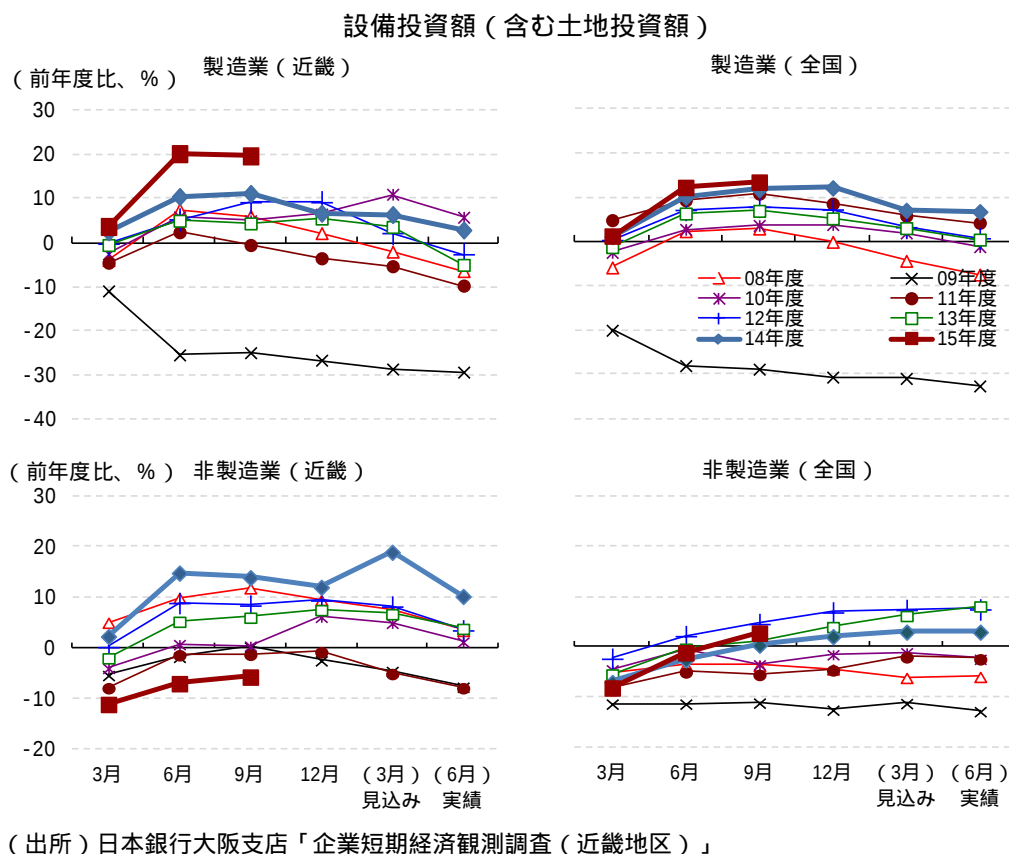


7. 設備投資 ～持ち直しが一服

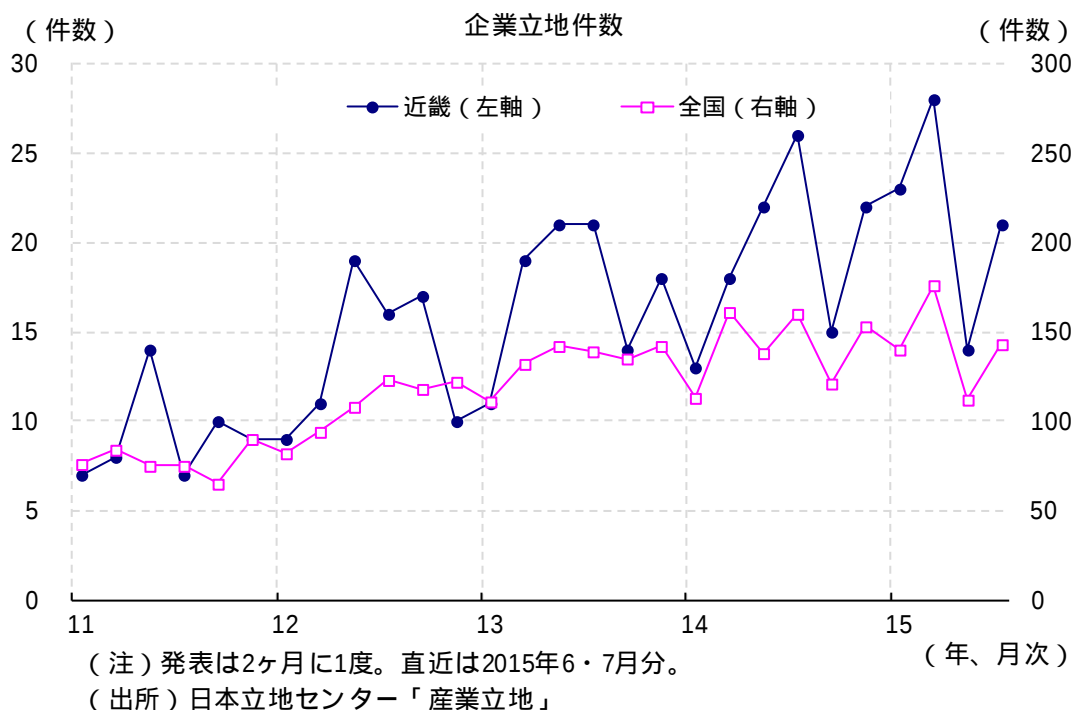
○2015年4～6月期の関西の大企業の設備投資（ソフトウェアを含む）は前年同期比 - 8.0%と2四半期連続で減少した。製造業は同 - 12.4%と2四半期連続で減少、非製造業も同 - 4.6%と2四半期連続で減少した。



○日銀短観9月調査によると、関西の14年度の設備投資は、全産業で（全規模）で前年比 + 7.5%、製造業（全規模）で同 + 2.8%、非製造業（全規模）で同 + 10.3%といずれも増加した。また、15年度は、全産業で同 + 3.5%、製造業で同 + 19.6%、非製造業で - 5.6%と見込まれている。

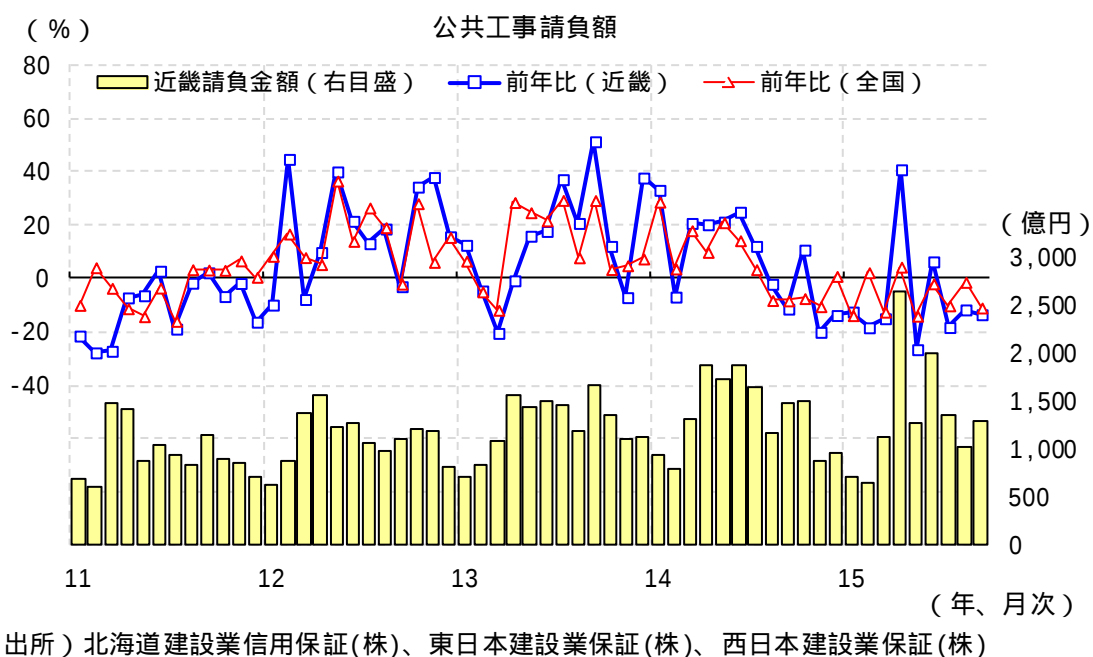


- 近畿地区の企業立地は2015年6・7月の立地件数は21件と、4・5月（14件）から増加した。前年同期（26件）と比べると減少している。



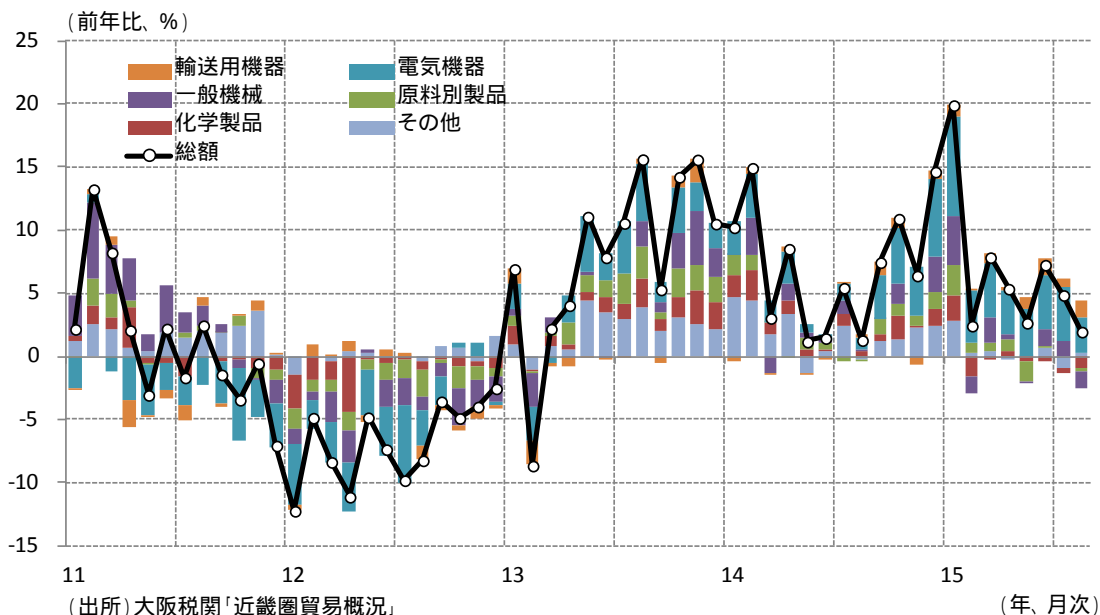
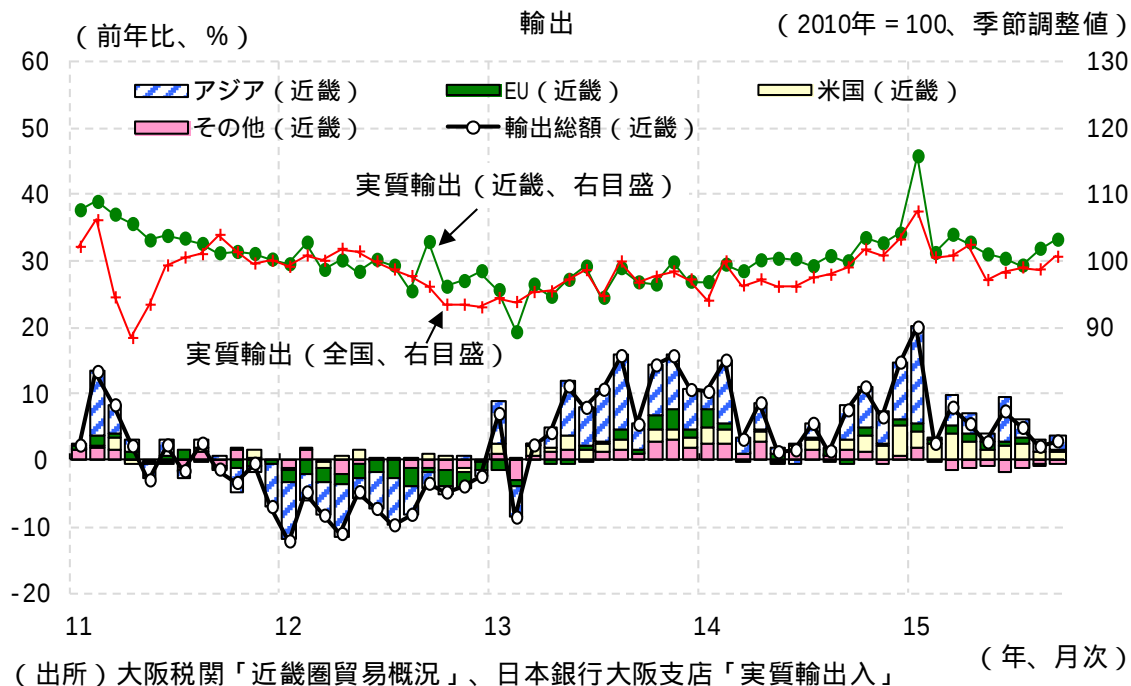
8. 公共投資 ～横ばい圏で推移している

- 9月の近畿地区の公共工事請負額は、前年比 - 13.4%の1,286億円と3ヶ月連続で減少したが、均してみると横ばい圏で推移している。府県別では滋賀県、大阪府、兵庫県が増加したが、他の府県は減少した。発注者別では、独立行政法人が増加したが、国、都道府県、市区町村などは減少した。今後についても、2014年度補正予算の効果が一巡しているため、横ばい圏での推移が見込まれる。

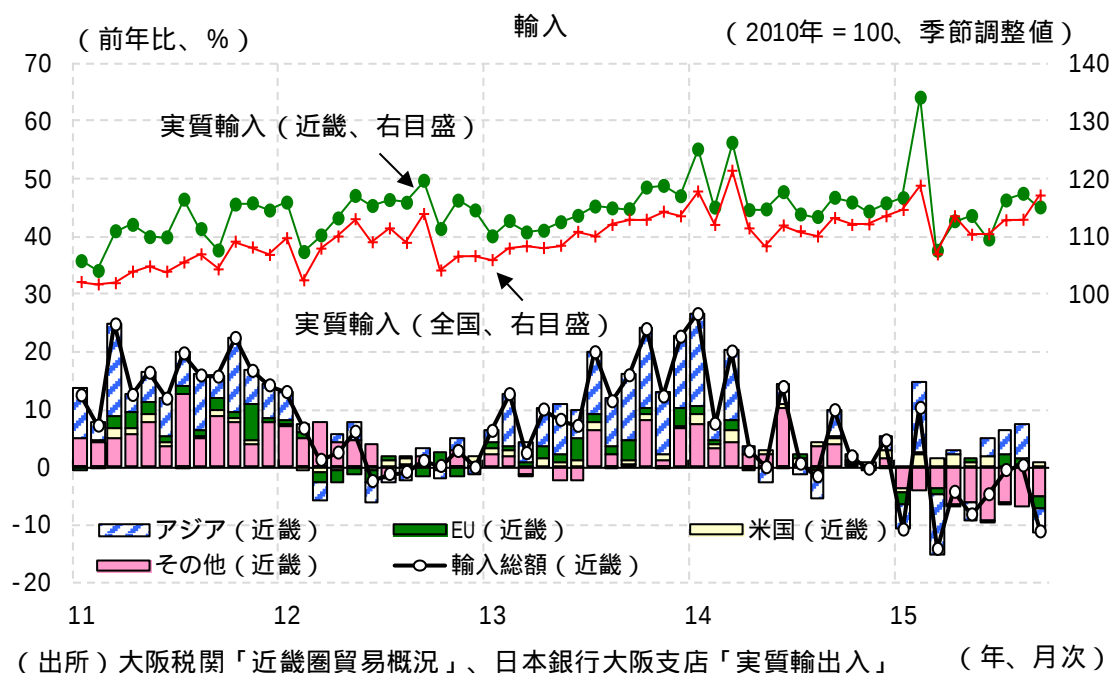


9. 輸出入 ～輸出入ともに横ばい

○9月の近畿地区の実質輸出は前月比+1.3%と2ヶ月連続で増加した。また、9月の輸出額（通関統計速報）は前年比+2.8%と31ヶ月連続で増加した。地域別では、アジア、米国、欧州、中国などが増加した。品目別では通信機、半導体等電子部品が増加し、過去最高額を記録した。今後は、海外経済の回復が緩やかなものにとどまる中、横ばい圏での推移が見込まれる。

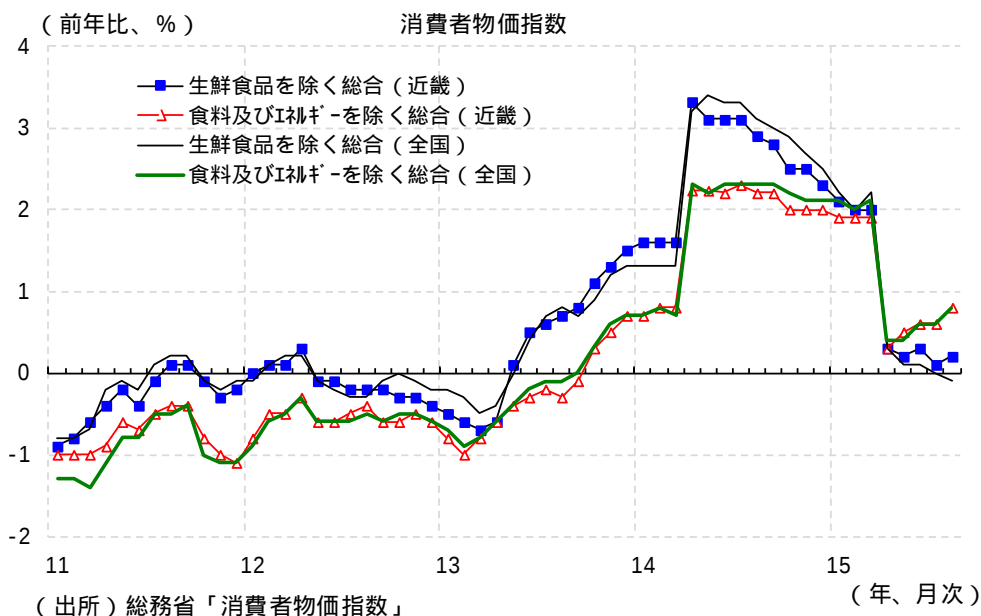


○9月の近畿地区の実質輸入は、前月比 - 2.0%と3ヶ月ぶりに減少した。また、9月の輸入額（通関統計速報）は前年比 - 11.2%と2ヶ月ぶりに減少した。地域別では米国が増加したが、アジア、EUなどで減少した。品目別では衣類及び同付属品が増加したが、原油及び粗油、通信機が減少した。今後は、国内需要動向を反映し横ばい圏の推移が見込まれる。



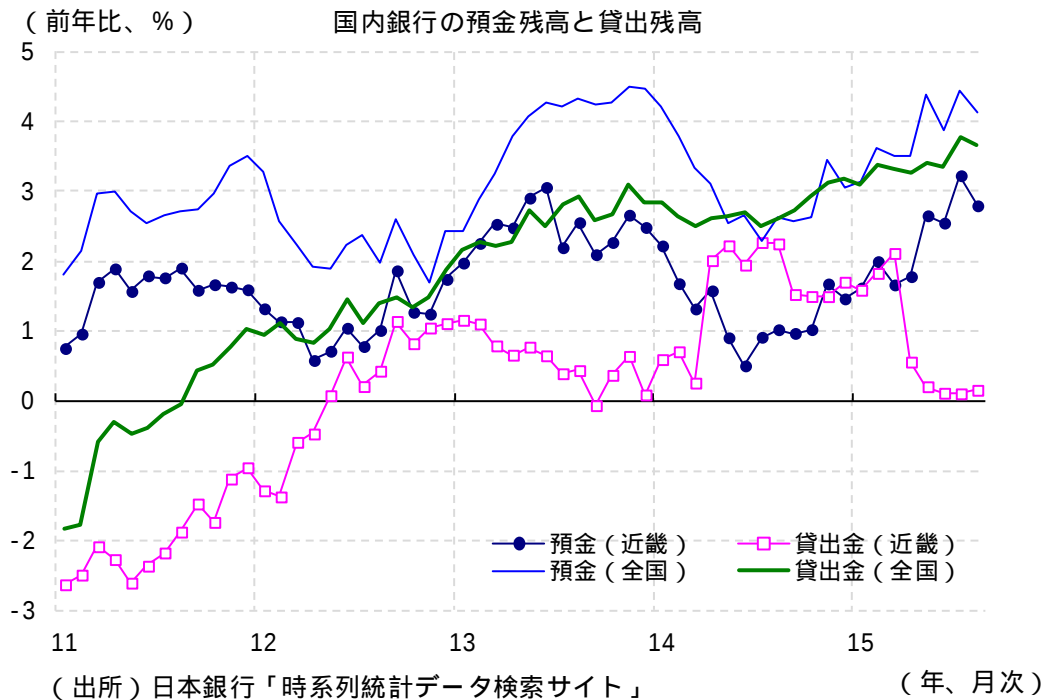
10. 物価 ～緩やかに上昇

○8月の近畿圏の消費者物価は、総合で前年比 + 0.5%と27ヶ月連続、生鮮食品を除く総合で同 + 0.2%と28ヶ月連続、食料・エネルギーを除く総合で同 + 0.8%と23ヶ月連続で上昇したが、消費税率引き上げの影響が一巡した後、伸び率は緩やかとなっている。今後は、円安による輸入物価上昇が上昇圧力として働く一方、エネルギー価格の下落が低下圧力となるため、物価は横ばい圏で推移しよう。



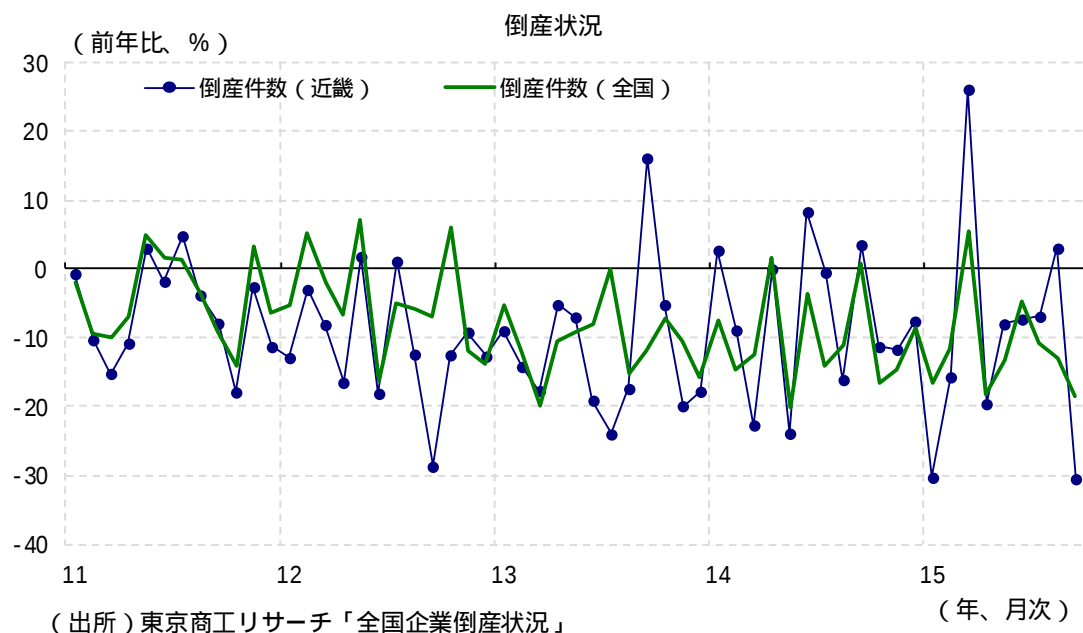
11. 金融 ～ 預金は増加、貸出は横ばい

○8月の近畿地区の預金残高（国内銀行ベース）は、前年比+2.8%の107.5兆円となった。定期性預金は前年比で減少が続いているが、要求払預金が増加している。また、近畿地区の8月の貸出残高（国内銀行ベース）は、同+0.2%の59.5兆円とほぼ横ばいとなった。日銀大阪支店では、企業向けや住宅ローンの増加等が貸出の増加要因とみている。



12. 倒産 ～ 倒産件数、負債総額ともに減少

○9月の近畿地区の倒産件数は、前年比-30.5%の166件と2ヶ月ぶりに減少し、低めの水準で推移している。府県別にみると、和歌山は前年と同水準、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良は減少した。また、倒産企業の負債総額は、同-25.7%の194億円と4ヶ月連続で減少した。府県別では、滋賀、大阪、兵庫で減少した。



【全国及び東海地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	→		→	輸出	全国	↘		→
	東海	→		→		東海	→		→
	関西	→		→		関西	→		→
個人消費	全国	→		→	輸入	全国	→		→
	東海	→		→		東海	→		→
	関西	→		→		関西	→		→
住宅投資	全国	↗		→	生産	全国	↘		→
	東海	↗		→		東海	↘		→
	関西	↗		→		関西	→		→
設備投資	全国	↗		↗	雇用	全国	↗		→
	東海	↗		↗		東海	→		→
	関西	→		→		関西	→		→
公共投資	全国	↗		↘	賃金	全国	↗		↗
	東海	↘		↘		東海	↗		↗
	関西	→		→		関西	→		→



：晴れ



：薄日



：曇り



：小雨



：雨

（注）1．3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感（改善、横ばい、悪化）を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

2．シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

3．全国は10月2日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。

【各項目のヘッドライン】

項目		9月のコメント	10月のコメント
1. 景気全般	全国	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動きが見られる
	東海	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動きがみられる	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動きがみられる
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
2. 生産	全国	横ばい圏で推移している	弱含んでいる
	東海	弱含んでいる	弱含んでいる
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
3. 雇用	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	持ち直しの動きがみられる	横ばい圏で推移している
4. 賃金	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	持ち直している	持ち直している
	関西	持ち直しが一服している	横ばい圏で推移している
5. 個人消費	全国	持ち直しが一服	横ばい圏で推移している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	持ち直しの動きが一服している	横ばい圏で推移している
6. 住宅投資	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかな持ち直し傾向にある
	関西	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる
7. 設備投資	全国	緩やかな増加基調	緩やかな増加基調
	東海	増加している	増加している
	関西	持ち直しが一服	持ち直しが一服
8. 公共投資	全国	増加している	増加している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
9. 輸出入	全国	輸出は弱含み、輸入は横ばい圏で推移している	輸出は弱含み、輸入は横ばい圏で推移している
	東海	輸出、輸入ともに弱含み	輸出、輸入ともに弱含み
	関西	輸出は弱含み、輸入は横ばい圏で推移	輸出入ともに横ばい
10. 物価	全国	企業物価は下落、消費者物価は横ばい	企業物価は下落、消費者物価は小幅下落
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	緩やかに上昇	緩やかに上昇
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金は増加、貸出は横ばい	預金は増加、貸出は横ばい
12. 倒産	東海	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数、負債総額ともに増加
	関西	倒産件数は増加、負債総額は減少	倒産件数、負債総額ともに減少

（注）シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目（11.金融、12.倒産を除く）

「グラフで見る関西経済」の見方

【今月の景気判断】

- レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

- 3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。
- 現況・・・各項目の現在の「水準」を 晴れ、薄日、曇り、小雨、雨の5段階に分類。
- ～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

（注）

現況をあらわす天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が 改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

- 各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

- 全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。
- 右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

- 景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

- 当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

- 発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び東海地区との比較】

- 【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と東海地区（グラフで見る東海経済）の判断と、一覧表で比較。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。